

赤谷プロジェクト 近況報告

赤谷プロジェクトでは生物多様性の復元を進めるにあたり、森林の取扱い手法の調査・研究や大型猛禽類を森林生態系における指標種としてモニタリングを続けていますが、それに加え、生物多様性の復元をほ乳類の視点から評価できないか検討しています。

そこで、今月は赤谷プロジェクトで行っている調査の一つであるホンドテンのモニタリングについてご紹介いたします。

なぜホンドテン？

多くのほ乳類の中で、ホンドテンを選んだ理由としては、



昼の小出俣林道を行く「ホンドテン」



スケールと一緒に写真を撮り
サンプリングをする

- ①行動圏が数十kmで林小班単位の環境変化と密接な関わりがあること、
 - ②河川、山地など平面的な広がり、他、樹上という3次元の活動範囲を持つこと、
 - ③食性が植物から動物まで非常に幅広いこと、
 - ④全国の広い地域に分布しているため他地域との比較ができること、
- ホンドテンは大型猛禽類のように生態系の頂点に立つ種ではありませんが、生息環境が幅広いことおよび食物に対する選択幅のずば抜けて広いことは、対象とする地域の環境状況を把握する有力な指標として活用できる可能性があります。

ホンドテンの モニタリング調査

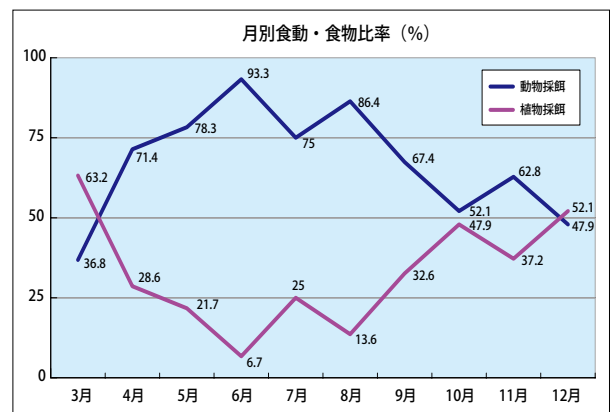
ホンドテンはイタチよりやや大きな中型ほ乳類で、主に夜間に活動するため、めつたに出会うことはありません。そこでホンドテンの糞の内容物から食性傾向、各環境の利用傾向や赤谷の地域的特徴などを明らかにしていこうとしています。

調査はフィールドを歩きながらホンドテンの糞をサンプリングします。サンプリングする際は写真や位置情報、周囲の林況なども記録し、これを調査の指導をして頂いている専門家に分析してもらいます。

調査はとても根気のいる活動です。しかし、根気よく続けることにより、過去のデータから季節により糞に出てくる食物を予測したり、以前のデ



サンプリングを学ぶ地元の皆さん



平成18年度の採餌動物・植物の傾向

ータと違う結果の理由を推測したり、場所の違いによるサンプル数の増減を考えたり、とても興味深い活動でもあります。

そして、このモニタリング調査は、プロジェクト・サポーターによる調査が非常に重要な部分を占めており、サポーターがプロジェクトの活動に参加していくという意味においても重要な活動です。

しかし、食性傾向や地域的特徴などを明らかにしていくには、まだサンプル数が少なく、さらなるデータの蓄積が必要です。赤谷プロジェクトでは今後も根気よくデータの蓄積を進め、赤谷の森の自然環境を把握していきたいと思えます。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)